

所報

No. 24
昭和62年2月

広島市教育センター

性をみつめる



あかね会土谷病院産婦人科部長 河野美代子

「中学生の女子の非行は手に負えない。家出、ひっかけなど、必ず年上の男との性が伴っているから」しばしば、このような話を聞く。しかし、私は、疑問に思う。女だけの問題だろうか？ 中学時代だけの問題だろうか？

中学の先生にとって、生徒が中学時代を、何とか無事に過ごしてくれれば……との思いがあるのかもしれないが、子供一人ひとりにとって、中学時代は長い人生の流れの一時期に過ぎない。中学生の女の子を相手にする男性も、当然、中学時代を通り過ぎてきたのである。言い換えれば、中学校もそのような男性を送り出している責任があるとは言えないだろうか。

性の軽薄化は、決して女だけに見られるのではない。性は、女同士で実行する訳でもあるまい。男がいて、女がいて、その関係の中に性がある以上、男と女、双方の問題として考えられなければならないと思う。遊びや金のための性を実行するのは、女にとっても男にとっても不幸なことだ。

軽く性を実行している若者を、痛ましいと思う。デートクラブ、テレフォンクラブを舞

台として、見知らぬ者との性を実行する子に出会うと、性をこのように軽くさせてしまったのは、我々大人なのだとし訳ない気持ちになる。でも、お金を媒介として、少女たちの相手をするのは、大人の男性である。

若者の性を論じる前に、我々大人が、性をどうとらえ、どう実行しているのか、本当に豊かな性を生きているのか、考えてみるべきではないだろうか。自分たち大人を巡る性の社会を棚上げしたまま、若者の性を論じ、男の性をそっちのけにして、女の性を論ずるのは、もうやめてほしいと思う。

男と女が手をたずさえ、共に生きていく中で、はじめて双方にとって“いい性”が得られていくのだと、また十分にコミュニケーションももてない間柄で性を実行したところで、決して豊かな性にはならないのだと若者たち、男女双方に伝えたい。

そのためには、何よりもまず、我々大人の性に対する意識を点検しなければならない。そして、その姿勢の中から、はじめて若者に性を伝えていくことが、可能になるのではないかと考えている。若者たちの性の問題は、まさに大人の性の問題であるといえよう。



教養講座

情報化社会と教育

— マルチメディアの中で育つ —

放送大学教授 深谷昌志

去る12月4日、深谷昌志先生をお迎えし、広島市青少年センターで教養講座を開催しました。多数の先生方が受講され、大好評でした。

講演内容や受講された先生方の感想などを紹介します。

講演内容から

私は子供たちの確かな姿をとらえるために、アンケート調査だけでなく、実際に子供たちの中に飛び込むことを大切にしています。

その中で20年も前から問題だと思っていることは、テレビなどのマスメディアの普及に伴い、子供たちの群れがくずれてきたことです。しかもそれは日本全国どこも同様です。このようなことは、世界にも例がありません。

子供たちの群れがくずれたことにより、人間形成にゆがみが生じています。比較的軽い問題から紹介しましょう。

第一は、子供たちの運動量が減り、体力が低下してきたことです。

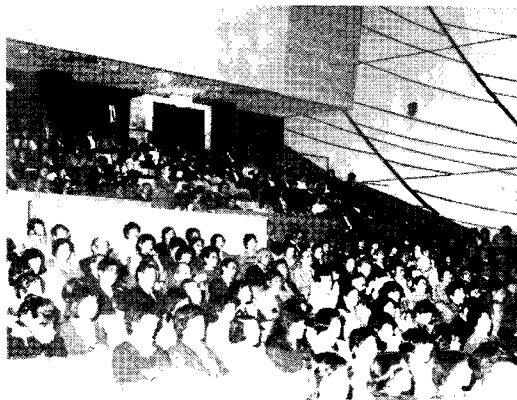
第二は、マスメディアを通して知識は豊富になったが、手のひらのぬくもりや自分が生活している足もとの土を知らない子供が増えてきたことです。

第三は、一人でいることに慣れてしまって、人間関係の距離のとり方が下手になったことです。これはいじめとも関連があります。

第四は、これが一番大切なことですが、ほくだって、わたしだってこんなことができるという自信がもてない子供が増えてきたことです。

今日の課題は、学校では今まで通り学力などをつけることを大事にしながら、その一方で地域や家庭に働きかけて、地域の中に遊びの群れを再生することだろうと思います。

(講演内容の後半部分を要約しました)



◀ 受講中の先生方

受講者の感想

広い視野から子供を

多くの保護者や教師が、自分たちの子供時代にくらべて、今の子供たちが大きく変わってしまったと考えていますが私も同感でした。深谷先生は、情報化社会への転換が、子供の育ち方に様々な影響を与えていることを、わかりやすく話されました。社会の変化や外国の様子にも目を向け、広い視野から子供を理解し、教育を考えていく必要性を痛感しました。遊びの群れの再生を、子供のくらしの基本にかかわる提言として受けとめ、教職員の一人として努力したいと思いました。

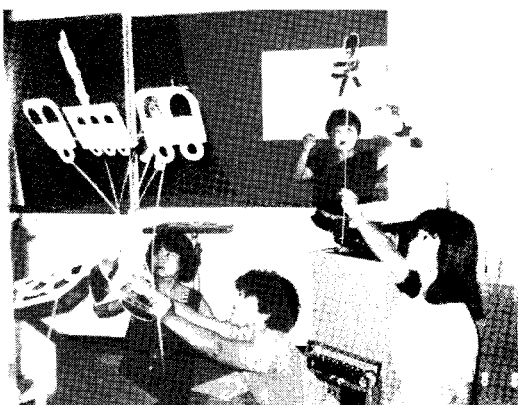
今年も12月の第1木曜日に開催予定

この教養講座は今後毎年、12月の第1木曜日に開催する予定にしています。年間行事予定等で配慮していただければ幸いです。

OHP教材に子供たちも大喜び

広島市立安東幼稚園教諭 山下京子

OHPの効果的な利用法について、指導者として研修する機会が与えられました。機器類は敬遠しがちでしたが、OHPは簡単に操作できます。特に色彩・照明の工夫によって楽しい教材ができるところに魅力があります。影絵によるお話、TPシートを活用した生活指導などは、子供たちに大変喜ばれています。



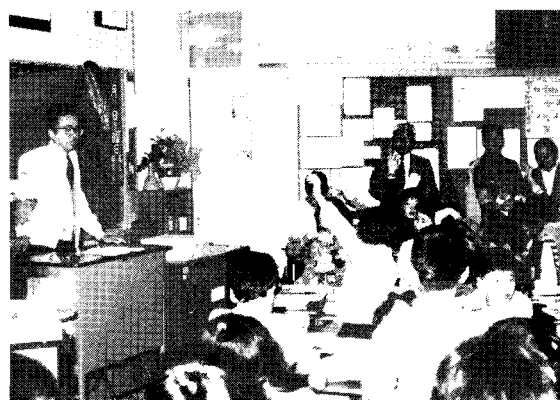
▲幼稚園教育実技講座

提案授業を校内研修とタイアップで実施

広島市立牛田新町小学校教諭 周田光芳

教育センターから講座の提案授業をとの話があり、力不足と知りつつ引き受けました。幸いなことに講座と校内研修とを合同で実施してもらえたので、教材研究や資料の開発についても共同研究をすることができました。

今回の提案授業は、指導というよりも、自分へのよい刺激になったと思います。



▲小学校社会科指導講座

研修講座数 159 講座 研修講座指導者の声 延指導者数 389名

授業をみつめ直すよい機会になった

広島市立己斐中学校教諭 山本里恵子

あすの授業の心配はしても、すんだ授業を振り返る機会はありません。でも、今回講座で授業をして、学生時代に自分なりの授業を創りたいと燃えていたことを思い出しました。本来、自分は何をどのように教えたのかを、じっくり考え直すよい機会になったと思います。

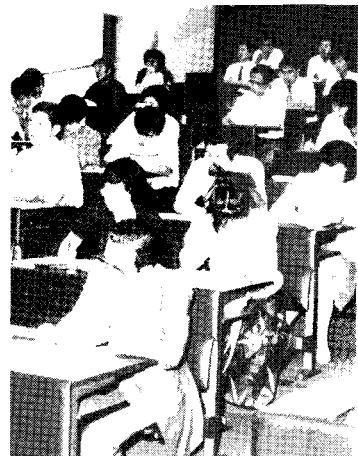


▶中学校技術・家庭科指導講座

被爆体験の継承こそ私たちの使命

広島市温品公民館主事 原田幸夫

被爆体験を聞き取り調査した中で、これを次の世代に継承することは、私たちの使命であると感じました。40年という歳月が記憶を薄れさせていますが、体験のもつ説得力の偉大さを痛感しました。被爆体験集作りに終わることなく、被爆体験の生の声が伝わるようなお年寄りとの“ふれ合いの広場”などを企画できたらと考えています。



▲平和教育講座

Q

おこたえします

A

教育相談室から

Q 日頃からおとなしいA君（中一男）が1か月ぐらい前から、特別な理由も見当らないのに欠席がちになり、最近月曜日にはほとんど欠席しています。

登校拒否にならないかと心配です。

A 相談の内容にそって考えてみると……

○ 中学生（思春期）の特性として自分や周囲の人たちの内面が見え始め、そこに疑問点や不信感を覚えたり、自信を喪失してくる場合があります。A君の心にも、その変容が起こっているとも考えられます。

○ おとなしいということは、情緒が安定し素直であるということもありますが、A君にとっては、いろいろな要因が働いて平素自己表現がうまく出来なかったとも考えられます。

A君が、日頃表面に出せなかったものについて、考えてみてください。

○ 休日に休むことは楽しいことですが、みんなが登校をしている日に欠席をすることは、子供にとって、決して楽しいことではありません。そこには周囲の人、あるいは本人にとっても分からない深い理由が必ずあると考えられます。

登校拒否という行動を通してA君が何を訴えようとしているのか、考えていく必要があります。

○ 土曜日の午後から日曜日にかけての生活のリズムの継続として、月曜日は登校しにくい日です。また、その他体育などのある日には、必ず欠席をするといったケースもよくみられます。欠席の日数だけでなく、その中身にも注目してみてください。

○ 具体的な方法について

・ まず、A君との触れ合いの機会を多くする。一緒に身体を動かしながら（ゲーム、作業等）話し合う。

・ 学級の中にA君の登校を阻害するような要因はないかを考え、直接のきっかけとなるようなことから（学業不振、いじめ、行き過ぎた班競争など）があれば、ただちに適切な対応を進める。

・ 友だちからのほげましが有効な場合もあるが、状況に即したものでないと逆効果になることもあるので、保護者とよく話し合ったうえで進める。

・ 教科担任、養護教諭など他の教師からの情報収集や、指導についての共通理解を得るなど協力態勢づくりをする。

・ 保護者との連携を密にする。ただし、登校拒否を罪悪視し保護者を責めたりするのではなく、A君の問題解決について、一緒に考えていこうという気持ちを忘れないようにする。

・ むやみに登校刺激を与えるのではなく、まず、本人や保護者の情緒の安定を図る。

・ 本人の生育歴や家族関係など、背景となることについて、保護者とじっくり話し合う。（話しにくい内容の場合、他の教師の協力を要請したり、相談機関と連携をとりながら相談を進める。）

◎ 中学生の登校拒否は、年々増加の傾向にあります。表面的な理由のみを問いつめたり、学校に来てくれさえすればよいという安易な考えではなく、本人の成長を保護者とともに、援助していこうという姿勢が大切です。

（広島市教育センター指導主事 橋本 郁）

教育研究紹介

小学校学級会活動に関する調査研究

一児童の発言参加を促す「話し合い活動」を中心に一

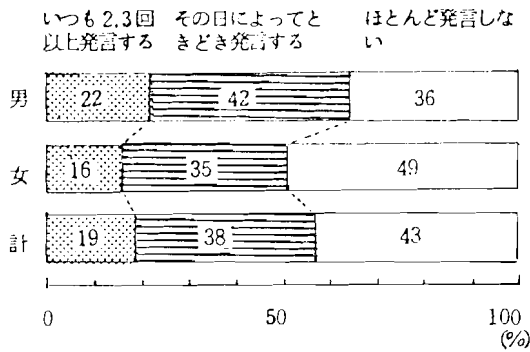
広島市教育センター指導主事 升尾好博

高学年になるほど話し合い活動が低調になるといわれている。そこで本研究では、児童の意欲的な発言参加を促す話し合い活動の望ましい指導の方向を探った。ここでは発言参加と議題との関連について述べることにする。

発言参加の現状

図1は広島市立小学校5年生440名に「あなたは話し合いの時、どのくらい発言していますか」とたずねた結果である。いつも2〜3回以上発言する児童は19%に過ぎず、43%もほとんど発言しない児童がいる。発言参加は話し合い活動の入口であり、半数近くの児童が入口に達していない点には注目する必要がある。

図1 発言参加の現状



話し合い活動でほとんど発言しない理由

ほとんど発言しない43%の児童が意欲的に発言するようになれば、話し合い成立の糸口はつかめる。そこで、ほとんど発言しないと答えた児童(189名)に、発言しない理由を15の選択肢を用意してたずねた。その結果、上位三位は次の通りであった。

- 「こうだと思いがうまく言えない」 68%
 - 「はずかしいので手をあげて言うのをやめる」 32%
 - 「ほかの人に先に言われてしまう」 29%
- これ以外にも議題に関する項目が、多数の

児童に選択されていた。また、「先生がいるからほんとうのことが言えない」が13%もあり、教師の学級会活動に対する指導姿勢も、発言を阻む要因の一つになっている。

児童がよく発言したと思う議題

取り上げられた議題が児童にとって必要感や切実感があり、しかも「何を」「どうするか」が一読してよくわかるような表現になっている場合、児童は活発に発言参加している。

一方、議題が本来教師が指導すべきものや、児童の生活を規制するものである場合、発言者は少ない。

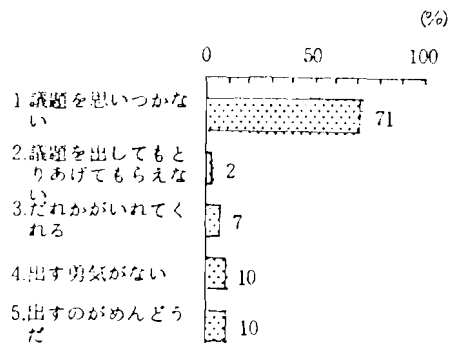
発言参加と議題提出経験

発言参加と議題提出経験との関連を分析した。その結果、話し合い活動でほとんど発言しない児童は、議題を提出した経験も少ないことがわかった。

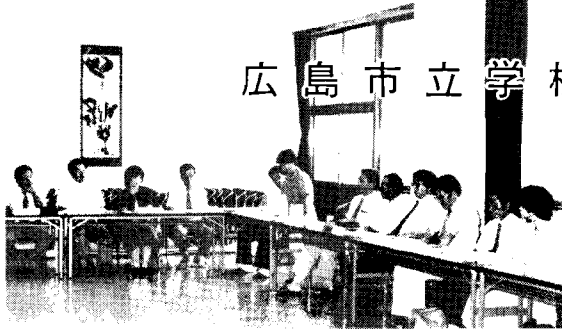
議題に気づかせる指導

図2によると、議題を出したことの無い理由では「議題を思いつかない」が71%と圧倒的に多くなっている。議題箱にのみ頼る指導からの脱皮を図る必要がある。議題に気づかせる様々な指導の手だてが、話し合い活動への意欲的な発言につながるであろう。

図2 議題を出したことの無い理由



広島市教育センター『研究紀要』第6号 (昭和61年4月発行) 参照



広島市立学校教育研究生紹介

本年度は22名の先生方が9月から11月の3か月間、当教育センター及び在勤校において研修をされました。今回は研究主題と研修の歩みを紹介します。

〇〇〇〇

思考力の育成をめざす説明文の指導

広島市立毘沙門台小学校教諭 片桐 豊彦
 説明文を確かに読み取らせる指導法の工夫
 広島市立大州小学校教諭 室下 峯子
 商業高校生徒における「敬語」の習熟に関する研究

広島市立広島商業高等学校教諭 山口 恭子

〇〇〇〇

社会科の思考力を育成するための授業構成はいかにあるべきか

広島市立似島中学校教諭 森 信吉

〇〇〇〇

パソコンを活用した4年生「面積」の効果的な指導法

広島市立原小学校教諭 亀宝 悠二
 量の概念の育成に関する研究
 広島市立白島小学校教諭 三角 昭士

〇〇〇〇

観察・実験を通してやる気を育てる指導法の研究

広島市立黄金山小学校教諭 泉尾 悠紀子
 科学的思考力を育てる指導法の研究
 広島市立江波中学校教諭 竹原 年宏

〇〇〇〇

表現意欲を高めるための指導法の研究

広島市立幟町小学校教諭 永岡 照美
 変声期における歌唱指導法の研究
 広島市立己斐小学校教諭 林 久雄

〇〇〇〇

学習意欲を高める絵画指導法の研究

広島市立三和中学校教諭 川辺 幸江

〇〇〇〇

課題達成を喜ぶ体育学習

広島市立梅林小学校教諭 光宗 政明
 運動する喜びを感じる体育学習

広島市立温品小学校教諭 菊間 博明

〇〇〇〇

技能テストによる技能習得状況の把握

広島市立楠那小学校教諭 円福寺 みどり

〇〇〇〇

音読の指導とその評価について

広島市立高陽中学校教諭 林 香代子

〇〇〇〇

学級会話し合い活動における望ましい結論の求め方に関する研究

広島市立己斐上小学校教諭 森宗 寿博

〇〇〇〇

問題行動にかかわる自己認知と他者認知

広島市立清和中学校教諭 安部 正己

〇〇〇〇

コミュニケーション行動に問題を持つ子供の指導に関する研究

広島市立可部小学校教諭 佐々木 幸
 知恵遅れの子供の構音指導に関する研究

広島市立大町小学校教諭 鶴野 里美

〇〇〇〇

「いじめ問題」克服をめざしての学級経営に関する研究

広島市立原南小学校教諭 岸本 博芳

〇〇〇〇

幼児の遊びに関する基礎的研究

広島市立川内幼稚園教諭 高木 浄美

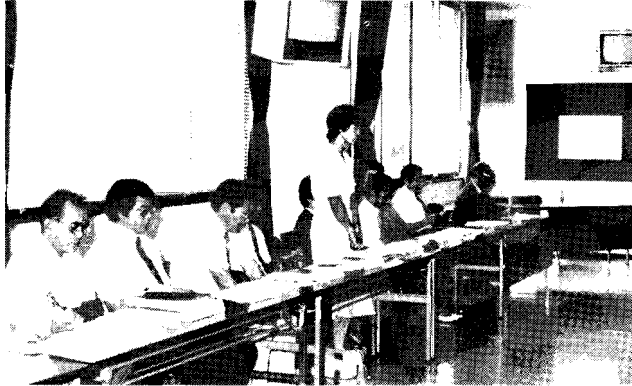
5歳児の表現力を育てる指導

広島市立山本幼稚園教諭 横山 敦子

研修の歩み紹介

3か月間の研修の歩みを簡単に写真で紹介します。

▼入所式後、合同研修会



担当指導主事と指導案の検討



指導の手だてに基づく実践授業

教育研究生からの便り

より質の高い授業をめざして
 広島市立似島中学校教諭 森 信吉

今回の研修は、記憶中心になりやすい社会科の授業を根本的に反省する機会になりました。発問の工夫と資料の発掘により、学習意欲を高め、思考力を養う授業ができることがわかりました。多くの書物に接して、より質の高い授業をめざすことこそ教師の責務です。このことを再認識することができました。本当にありがとうございました。

教育研究生からの便り

説明文の指導に自信

広島市立大州小学校教諭 室下 峯子

説明文を確かに読みとらせる手だてとして、書き込みを取り入れる指導を試みました。書き込みは、一人読みを形に表す活動なので、一斉指導の弱点を補うことができます。また、児童のわからないところがよくみえてきますので、授業改善にも大変役立ちました。

今回の研修を通して、説明文の指導のあり方がみえてきたように思います。よい機会を与えられ、感謝しています。



研究報告会



修了式

学童疎開

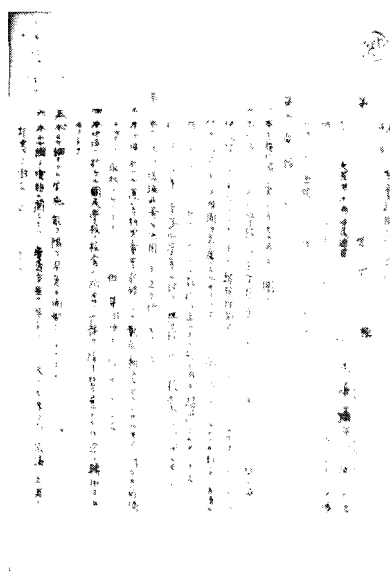
学童集団疎開

戦後は終わったといわれて久しい。だが、広島では、昨年も41年ぶりの同窓会が学童疎開先で行われている。すでに50歳前後になる参加者は、その大半が疎開中に原爆で肉親を失っており、疎開先での思い出だけでなく苦しかった戦後の生活を涙ながらに語った。

戦争による最大の被害者は子供達だった。昭和20年に国民学校3～6年生であった子供達は、集団疎開という異常体験を強いられた。幼くして親元を離れたというだけではない。飢えとシラミに悩まされ、憎しみといがみ合いに明け暮れた幼子の集団生活であった。とにかく腹がすき、絵具や歯磨粉までなめた。疎開中に原爆が投下され、親の安否をたずねて幾夜も泣きあかしたという。

広島の学童は、昭和20年4月から安佐・山県・佐伯・双三・比婆・高田・世羅郡に疎開していった。紙の裏にガリ刷りされたこの「広

島市呉市学童疎開強化要綱」は、学童疎開の徹底強化を促したもので、これによって第2次疎開が行われたのである。裏紙を使っているところが、逼迫した当時の状況を如実に物語っている。



かつて広島市の疎開学童を受け入れた国民学校の中には、昭和46年からの広域合併によって、広島市立の小学校となっている所もある。

教育センターひろば

教育センターひろば

本年度も海外からの教育視察が相次ぎました。写真は、第5回WCCI（教育課程と教授のための世界協議会）世界教育大会参加のために来広された方々です。

中学校英語科指導講座を受講された先生方と交流されました。



教育センターひろば

本年度は市立学校等の先生方の作品に加えて、市立小学校児童の作品を展示させていただきました。



編集後記
 今年度最後の所報をお届けします。今回は、広島市立学校教育研究生特集を組んでみました。また、今号から、「広島市学校教育史点描」を紹介していきます。